

福島県農業の現場から

食品に関するリスクコミュニケーション
食品中の放射性物質に対する取組について

平成28年2月19日(金) ホルトホール大分

農業法人でんぱた 鈴木正美

販売不振

- 福島ブランドが極端に下落した。
- 線量基準値以下や不検出で、生産制限・出荷制限なくとも売れない。
- ブレンド米や業務用加工で「福島産」を消す業者も。
- 安売りしても、しなくても、物が残る。
- 支援イベントによる販売はありがたい。
継続的になるようお互いの努力が必要。

首都圏での販売

- 原発事故後、6割台へ減少。
事故前沸き立っていた町が沈んだ。
- 現在、7割台へ戻したが、客層は変わった。
- 「福島」を聞くと、品物から手を離す人が今でもいるが、気持ちを割り切るしかない。
- 事故後に離れていった客は戻っていない。
- 津波被害と原発事故では、あまりに違う。

人口減少

- 全国的な人口減少の中、事故は若者の更なる首都圏への流出に拍車をかけた。
- 除染や建設関連業態の仕事はあっても、若者の希望する仕事は少ない。
- 農業従事する高齢者が離農したあと、福島県農業はどれほど持続できるのか。
- TPPや米価の下落で、農村の荒廃に歯止めがかからない。

「でんぱた」事故後の取り組み

- 産学官連携の精密農業（リモートセンシング）
- 首都圏大学での学園祭出店
- グリーンツーリズム
- 6次化産業での商品化
- 農商工連携の定期的な首都圏農産物販売
- 農業による若者自立支援
- 町内農産物の試験輸出

「売る」へ力点を

- 損害賠償は相当因果関係かつ有限。
- 持続可能な農業へ不可欠な収益確保。
- 売れないから、作れない。
- 「売る」ための、人材確保と費用の先行投資が叶うか。
- 「売る」ことが福島ブランド再興への道
- 政府の農業政策で右往左往。
食糧管理法時代が良かったとの声も。

パチンコと寿司

「賠償金貰って、パチンコやって寿司喰って、5兆円も払って、いつまで……。｣とブログに書き込んであった。

書き込んだ人は、何万人の避難者の生活を指して言っているのだろう。どうか一緒に問題解決に力を貸してほしいとお願いしたい。

川内村でのフォーラムの際、会場質問者の言葉にこういうフレーズがあった。

「嫌な思いをして賠償金を欲しくない。もう一年以上も作物を作って無いんだ。生まれ育った村で、俺は残り少ない一生を過ごしたいだけなんだ。」 隣町へ避難している高齢者だった。

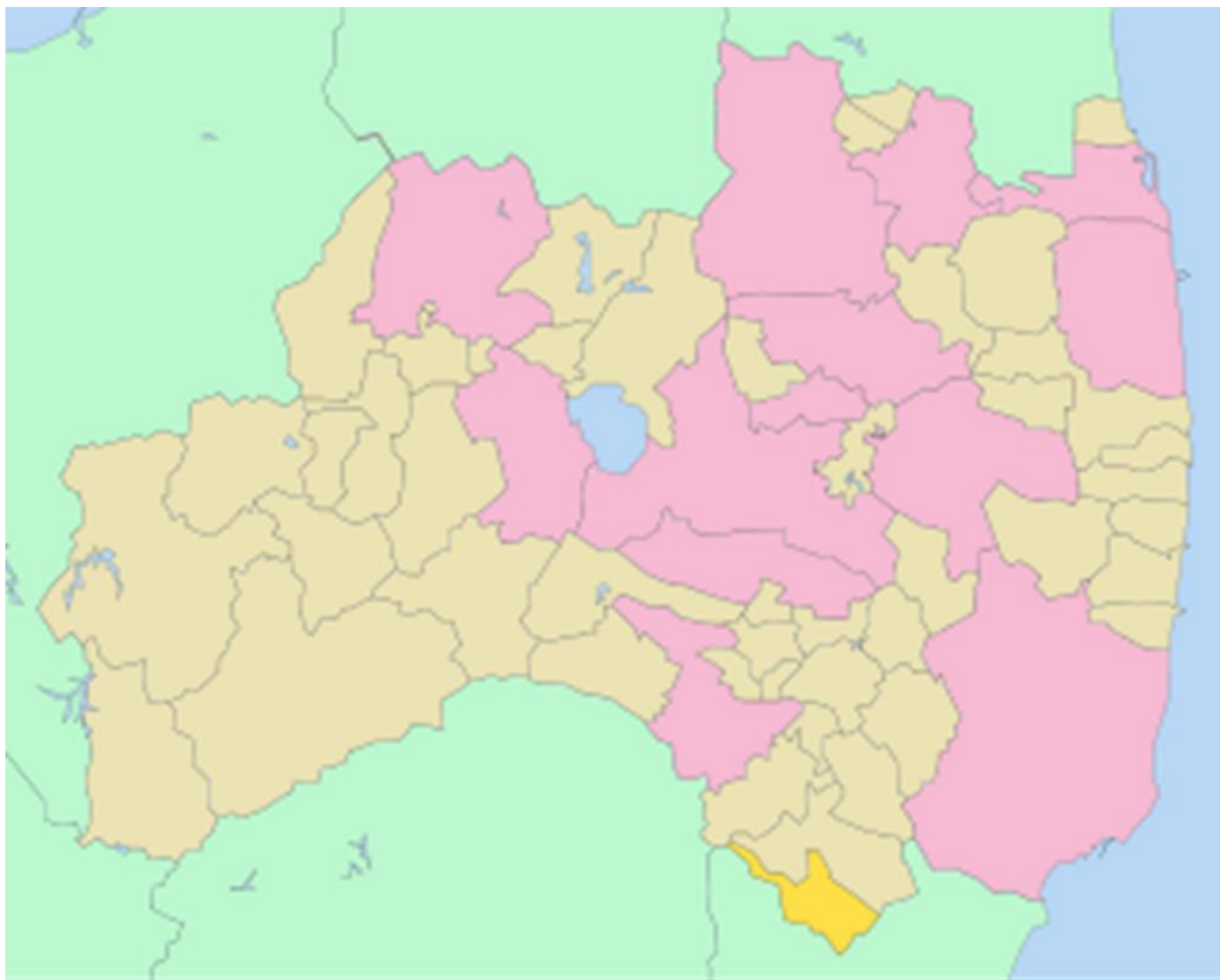
同じ農業者として忘れられない一言となった。

風評と風化の中、「福島」にフタをかぶせて済む問題では無い。

福島農業の現場から



農業法人でんぱた
鈴木正美



矢祭町の位置

矢祭町の概要

都道府県	福島県
郡	東白川郡
団体コード	07482-9
面積	118.27 km²
総人口	5,921人 (推計人口 、2015年5月1日)
人口密度	50.1人/km ²
隣接自治体	東白川郡棚倉町 、 塙町 茨城県 : 常陸太田市 、 久慈郡大子町
町の木	アカマツ
町の花	ツツジ
町の鳥	ヤマバト

戸津辺の桜





久慈川



滝川溪谷

矢祭山 県立自然公園





天王祭 夏祭り

田植えで一休み

